

2017年3月10日 第3192回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 谷 会長

<斉 唱> 「手に手つないで」

<ゲスト紹介> *神奈川県内広域水道企業団 企業長 吉川 伸治様

<委員長報告> *会員増強・会員維持委員会 清水委員長より女性会員増強のためのセミナー報告

*次年度広報・公共イメージ委員会 鈴木(豊)委員長より公共イメージセミナー報告

*ローターアクト例会のお知らせ

3月28日(火) 第1022回例会 於：ヨコスカタラス 19:45点鐘

「今後の予定についての打合せ」

<幹事報告> *ガバナー月信No. 9

*横須賀北RCより週報 着

*例会終了後第9回理事役員会開催(302研修室)

<出席報告> *出席委員会 澤田委員長より3月10日の出席率

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
112名	95名	55名	40名	13名	70.10%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 神奈川県広域水道企業団 企業長吉川伸治様、本日はお忙しい中、お出でいただきましてありがとうございます。卓話よろしくお願ひいたします。
- ・植田、エノーラ、福西、井 莉、岩瀬、山 〃、勝間、秋本、前川 各会員
神奈川県広域水道企業団 企業長吉川伸治様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- ・勝見、井 莉 両会員 誕生月祝いとして
- ・吉田 会員 入会月祝いとして
- ・萩生田、軍司、瀬戸、鈴木(豊)、波島、澤田、新倉(健)、藤村 各会員
いよいよ10,000メートル2日前です。お天気も良さそうです。皆様ふるってご参加下さい。
- ・地区会員増強・会員維持委員会 加藤元章 委員長
3月4日の女性会員セミナーには、小沢PGを始めとして谷会長他多くの女性会員にご参加いただき、有意義なセミナーとなりました。本当にありがとうございました！！
- ・鈴木(豊) 親睦委員長 先日の益山会員の送別会とっても盛り上がりました。お金余ったのでニコニコに入れちゃいま〜す。
- ・徳永 会員 信木さん、先日は大変お世話になりありがとうございました。
- ・外木 会員 ご無沙汰してました〜。
- ・前田 会員 皆さんお久しぶりです。来ちゃいました。
- ・淡路 会員 御無沙汰しております。夜間例会には欠席させて頂きます。申し訳ありません。
- ・齋藤(真)、渡邊 両会員 新倉さんご馳走様でした。
- ・加藤(健) 会員 先週、標さんからご案内がありました「ICT活用セミナー」来週の例会終了後に開催しますので、ご都合がよろしければ机の上の申込書にご記入ください。今、閑古鳥が鳴いています。
- ・加藤(元)、信木、勝見 各会員 WBC!日本2連勝。筒香2連発。今日も中国に勝って3連勝だ!
- ・物井 SAA 本日3月10日は寅さんこと渥美清の誕生日でした。これにちなんで、寅さんの言葉をお届けしました。心に残るひと言があれば「おいちゃんうれしいよ」

皆さん、こんにちは。貴重なお時間をいただきまして、確か昨年10月頃だったと思いますが、ご紹介いただいた上田さんから何か話をしてくれということでしたので、勝手にこのようなテーマでやらせていただきます。ご静聴よろしくお願ひします。まず、神奈川の水事情、皆さんに知っていただきたい神奈川の水源地、それから公益水道企業団というのは何をやっているのか、そして何が課題で、何をしなければならないのか、最後に水道水を飲むにあたってのポイントについてお話しさせていただきます。最初に知っていただきたいことですが、神奈川の立地状況は、人口が910万人を超えています。一方で、森林の面積は全国で45位。その中でどうやって水を確保していくのでしょうか。森林というのはまさに緑のダムですが、その面積が狭いということです。その状況で、水の有効活用をどのようにしていくのかが大きなテーマでした。相模ダム、城山ダムそして相模川の利用を検討する中で人口は増えていく。そこで、昭和54年に三保ダムが完成しております。更に平成13年、宮ヶ瀬ダムが完成しています。こういった先人たちの積み上げがあって今の状況が成り立っています。全体を俯瞰して見てみますと、真ん中に県央、湘南、そして相模川が流れています。相模川2億8240万 m^3 の水が使われています。また酒匂川の5250万 m^3 の2つの水系、神奈川のある意味では強みということになります。それぞれ見ていただきますと、この4つのダムは、利根川水系とは違って、ある意味では神奈川が唯一独占している状況にあります。地下水よりもむしろダム湖を使っているのが約81%ですから、いかに貴重な水源であるかということが分かると思います。したがって、県内で豊富な水源を持っていることになります。相模川が一級河川、酒匂川が2級河川ですがこの水系から取水できます。これは、渇水や地震等の災害があった時、非常に強みを発揮します。そして、この水源は主に都市部の需要を賄っています。水は県西部から県東部へ流れています。昨年利根川で渇水がありました。しかしながら、神奈川では宮ヶ瀬ダムが稼働して以来そのような状況はありません。利根川水系でよく話になるのが神奈川を除いての渇水です。真中の相模川、そして西にある酒匂川、実は相互に融通可能という連絡管を設け、平成17年から運用しています。具体的には、相模川のほうから酒匂川のほうに水を送り、相模から伊勢原の浄水場にある導水管に水を送りそれを使っています。もし相模川のほうの水が足りない時は、逆に酒匂川のほうから水を利用できます。こうした相互ユーズができるバックアップシステムが、災害等に対する強みとなっています。神奈川全体を見ますと、実は約9割は県東部の需要を賄うために使われています。地図を見てわかる通り、酒匂川の水も東のほうに行くと横浜や川崎そして横須賀、またそれ以外の県の湘南、県央の東部地域まで使われています。特にダムと地下水を見ると、横浜や川崎は、ほとんどダムの水が水源として確保されています。ところが、西の方は地下水が使われています。これは料金にも反映されています。したがって、県の平均は2070円。これは家庭用20 m^3 当たりの金額で平均的な数字ですが、全国平均の3215円に対して大変安い。更に県西部のほうは地下水であり、金額も大変安い。しかしながら、東の方は2224円、川崎2652円、全国平均から見れば大分安い金額で水が供給されています。

ところで、県内広域水道企業団って一体何だろうということが次のテーマです。それは、昭和44年に創設されました。2年後、創設50周年の節目を迎えることとなります。先ほども上田さんから話がありましたように、4つの構成団体から成り、ある意味では委託を受けた形での組合ということになります。何故昭和44年にできたかというと、神奈川県当時の人口が530万人くらいでした。今は910万を越えております。50年代以降県内の人口が増え、高度成長に伴い、水の需要が必要になってきます。それを背景に



この企業団ができました。したがって、相模ダムと城山ダムが当時造られたわけです。そして新たに酒匂川水系の宮ヶ瀬ダムができました。企業団設立の目的は、何と言ってもこの水道用水の広域的な有効利用です。一部の事務組合或は特別地方公共団体と言っていますが、水道事業を協同修理する事業を認められた団体、そして水道法では水道用水を供給する事業です。そこには、末端給水と用水供給という2つの役割があります。末端給水とは、家庭までそれぞれ給水をすることで水道局が担っています。我々はその水道事業者に対して水を供給する、ある意味では卸しみたい役割を担っています。したがって、直接県民の方に水道を売ることはできません。それぞれの水道事業者の方に水を売り、家庭に給水するといった形での役割を持っています。もう一つの側面は公営企業です。横浜市営水道があり、そして川崎市営水道、横須賀市営水道、ここで浄水、水を作り末端給水各家庭まで送っています。これは水道局が担っています。それに対して、相模川或いは酒匂川から水を採って浄水し、水道局へ売る。これが企業団の役割です。したがって、共同で水を作り給水していくということ、それぞれがやるのではなくて企業団の下で広域的に対応しています。この広域水道企業団、水道用水供給事業体は全国トップクラスです。一日当たりの水の生産量ですが、254万³m³の能力を持っています。ちなみに常勤職員数約322名、そして非常勤で約70名、合わせて約400名弱の職員を抱えています。予算は751億であり、相当大きな組織となっています。そうした中で、用水供給ですが、具体的にそれぞれの団体にどのくらい企業団の水が使われているかというのをグラフ化したものです。企業団からの受水というのが、神奈川県で53.9%。そして横浜市の水道局には48.4%。川崎は57.9%、そして横須賀は29.7%と。全体的には、50.9%、約半分が使われているということです。水というのは企業団から、その水道局に供給をして、言ってみれば卸売りで、それに対して市民の方からその水道利用料金を利用水道局に払っていただく訳です。その水道局から我々は受水費という形で、お金をいただいております。

構成団体との関係では、当然水の広域的な生産もありますが、一方で水質についても平成27年から一緒に行っております。水源の水質については、それぞれで検査をするのではなく、企業団が統一的に行うため、広域水質管理センターが一昨年になりました。目的は、水質検査、効率化、水質事故への対応です。これらは、一元処理されており、事故の場合は広域水質管理センターが速やかに調査し対応します。また水質の課題や技術の共有化をしながら研究開発していくことにも取り組んでいます。

では今一体何が課題かということ、神奈川県の人口推移を見ると、2019年の903万をピークに減少してきます。したがって、これが水需要に大きく影響してくる。逆に言えば、今までは増えていったために協同して水を作る課題があった訳です。しかし、これからは水需要が減っていくために、どう対応するのかが大きな課題となります。これは、必ずしも神奈川だけではなく全国の課題となっています。特に中小の水道事業は基本的に基礎自治体が事業者となります。しかし、水道料金でその経営が賄えなくなり、経営が厳しくなり、職員数も減ってきています。もう1つ大きな問題は、昭和44年から建てられた施設の耐震化が大きな課題となっています。全国平均は、浄水施設の耐震化率が23.4%、企業団は32%とそれを上回っていますけれども、浄水施設と配水池、つまり水道水を貯めておくところですが企業団としては30%となっています。これは既に着手しており35年までに100%にするといった目標を立てて取り組んでいます。併せて導水管や送水管等の原水を送る管、水道水を送る管についての耐震化に対しては、かなり耐震化が高いといった状況です。いずれにしてもこの耐震化に対してしっかり対応しなくてはいけないと考えています。もう1つ、全国的に問題となっているのは、導水管や送水管が老朽化していることです。一般的に水道管の法定耐用年数は40年と言われています。経年化管路率を見ると、企業団の場合は全体の14.5%が既にそれに到達しています。全国的には12%ですが、若干そういった意味では年数が経っています。一方で更新率は、現状0%という状況です。ただこの更新率を見ていただきますと、全国平均でも平成13年は1.54という数字ですが、平成26年は0.76です。これは、1%仮に更新をしていくと、管路更新全体をやるには100年かかるということになります。0.76ということになると、130年かかる状況です。今後本格的な更新になると、大きな課題となってきます。ところがそうした課題の中で、人口減少ということですので、100世帯が2割減になりますと、75%負担が増えます。これが66世帯、3分の1に減ってくれば今度は半分以上の負担が増えます。こういったことが人口減少の中での大きな課題です。また年齢別職員数、全国的な数字ですが、若い職員20代30代はかなり少ない。ですから一方で市民、県民の方に負担をしていかなければならない。更に、水道事業を担っている職員も不足し、技術力の継承も含めて大きな課題となってきます。そこで、県内広域水道企業団、構成団体と一緒に水道事業検討委員会というものを立ち上げま

した。個人事業者の水道施設が抱える課題は、需要動向と安定供給、或いは管施設の老朽化、水道施設の機能強化等です。老朽化施設更新の対応として、ダウンサイジングや耐震化の推進も必要です。更に、水道システムの再構築にあたってのバックアップ、単に新しくするのではなく機能強化やCO2 対策です。これはできるだけ下流からポンプアップで上げるよりも上流から流したほうがCO2 つまり電気を使わなくて済むわけです。そうした取り組みをするにあたっては料金負担はどうしても下げられない。したがって、今料金が安くても、管路更新などを考えれば喜んでいる状況ではないというのが我々の認識です。この管路を更新しなければ水道水の安定した供給が出来ません。そのためにはご負担をいただかなければいけないという意味でPRをしながら皆さんのご協力をお願いしているところであります。

一方で、国もいろいろな課題解決のため、つい今週の火曜日に水道の改正案が閣議決定されているところです。その中では、課題解決のための民間企業の技術、経営ノウハウ、人材活用等、官民連携が大きく打ち出されました。いずれにしても、都道府県が率先して形態を作り、取り組んでいくことが重要です。官民連携の取り組みでは、横浜市水道局で包括委託を進めています。官だけではなく、民と一緒に種々の課題について取り組んでいきたいと思っています。

最後に、言うまでもないことですが、水は大切です。昨年4月に熊本で地震がありましたが、その時にも水の重要性が指摘されました。特に熊本は地下水での取水をしているため、水が濁り使えないということがありました。体重の60%から70%が水分、特に若さや健康を保つためにも水分の供給は大事だということです。ペットボトルもいいですが、水道水もたくさん使っていただきたい。煮沸をすると匂いを取り除くことができます。一方で、煮沸をすると塩素分が飛びますので長時間保存は出来ません。しかし、この難局を解決するためには水道水をたくさん使っていただくことが一番です。一方、渇水の際は節水ということで、たくさん水を使うことは難しい。しかしながら、水は大変重要であり、水を3日摂らなければ亡くなってしまいます。やはり水道水を良い意味で活用していただきたい。ということで私の話は以上でございます。どうぞ今後とも水道企業団をよろしく願いいたします。ご静聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 鹿 島 勇